

「にっぽん農紀行〜ふるさとに生きる〜」熊本県編（完成稿）

① アバン

○天草ZB
八代平野

1 熊本県南部の八代^{やつしろ}平野。

○イグサ先刈り

2 ここは、
日本一のイグサの生産地です。

○イグサ収穫風景

3 戦後、イグサの主な生産地は
岡山県でしたが、
昭和40年代からは熊本県となり、
今日に至っています。

○資料映像

4 最近、生活様式の変化や
中国産イグサの輸入によって
国産イグサの生産量は激減。
最盛期のおよそ10分の1と
なっています。

○畳表出荷風景

5 そうした厳しい環境の中、
品質の高い畳表を生産するため、
イグサの栽培に全力を注ぐ
人々がいます。

○苗を下ろす

6 イグサ農家の1年を見つめました。

○イグサ水田

にっぽん農紀行 ふるさとに生きる
〜イグサが織り成す畳の文化〜

― 熊本県編 ―

② 畳は日本独自の文化

○熊本城ZB市街地

7 熊本県の中心、熊本市。
人口およそ75万人の都市です。

○熊本城

8 その中心に聳^{そび}える熊本城は、
戦国時代の武将、加藤清正^{かとうきよまさ}が
築いた名城として知られて
います。

○本丸御殿大広間

9 熊本城の本丸^{ほんまる}御殿^{ごてん}大広間^{おひろま}は
畳が一面に敷かれた武士の
空間です。

10 畳は武士の文化として
鎌倉時代から広まり、
明治時代以後一般の住宅にも
用いられるようになったと
言われています。

○畳職人

11 稲藁^{いねわら}で作られた畳床^{たたみどこ}に
イグサで作られた畳表^{たたみおもて}を
縫い付けた敷物、畳。
畳表は古くなると、
新しいものに取り換えられます。
畳は、気候や風土にあった
日本独自の敷物として、
昔から日本人に親しまれて
きました。

③ イグサの産地・八代

○球磨川舟下り

12 日本三急流の一つ、舟下りで有名な球磨川。

○河口ロング

13 その河口に八代市があります。

○干潟

14 干満の差が大きい八代海。

○干拓の図

15 ここでは、昔から大規模な干拓が盛んに行われてきました。

○八代平野。パン

16 八代平野のおよそ8割はそうした干拓によってつくられた土地だと言われています。

17 ここでイグサがえられるようになったのは、栽培されるようになったのは今から500年以上前のことです。

○大法寺過去帳ZU

18 室町時代、八代地方にあった上土城の城主、岩崎主馬忠久が、イグサを領民に栽培させたという記録が残っています。

19 それ以来、干拓地に適した作物としてイグサが広まったのです。

○八代市ロング

いま熊本県は、
全国のイグサ栽培面積の
およそ96%を占め、
その中心が八代市となっ
ています